

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 4月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690300183
法人名	株式会社華響
事業所名	グループホーム華蓮
所在地	鹿児島県鹿屋市野里町3456-7番地 0994-42-7223
自己評価作成日	平成26年2月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年3月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流、特に地域の小中学校との交流を活発に行っている。又、ボランティアで訪問して下さる方も多い。昨年から自社農園を利用した野菜作りにも取り組んでおり、落花生やさつまいもなどの収穫をお行うなど、楽しみをもって生活できるよう支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に地域の会合に出席し、開設のお知らせをしたり近隣を1件1件回り挨拶に向いてホームへの理解を求めた結果、開設当所より事業所自体がスムーズに地域の一員として受け入れられているグループホームである。近隣住民が散歩がてらに利用者の様子を見に来たり、無料で農園の貸出しもあり、植え付けから収穫までの一連の作業は利用者の喜びの一つになっている。小学生が帰り道に立ち寄り、匿名で何年も雑巾を届けてくれる人、多様なボランティアの訪問などホームは地域の中で、人が集うふれあいの場所として大事な位置づけとなっている。職員は看護師の管理者を中心に利用者の些細な表情や体調の変化を見逃すことなく、健康状態や精神面でのケアへの意識を高く持っている。介護計画作成者が独自で作成した詳細なモニタリング表を基にしたプランは利用者、家族の希望や意向が反映されている。職員間の密な情報の共有源にもなっており、質の高い介護計画書はサービスの向上へと繋がっている。管理者の妥協や慣れを許さない強い姿勢は、職員にも浸透しており、きめ細やかで温かいサービスを提供され、利用者、家族は安心して穏やかな日々を送れている。開設10年目を迎え、益々、地域との協働と近隣住民との絆も深くなって来ており、地域密着型サービスの主旨を真から捉えた、モデルとも呼べるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	生活の中で理念が生かされているかを常に振り返りながら、利用者が地域社会の一員として生活が送れるように支援している。	5つの理念を掲げている。職員は日々、理念の一つ一つに沿ったケアが出来ているかを確認し、振り返りを行うことでホームの目指すサービスを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域行事にも参加、近隣の小学校との交流も定期的におこなっている。	開設当初から地域住民との強い絆が構築されている。雑巾の提供者や採れたての野菜の差し入れをはじめ、地域の小学校の「ゆとりの時間」の体験学習の申し込みも毎年ある。有線放送などを通してホームの行事の発信もできており、ボランティアの来訪なども多く、日常的に地域との多様な繋がりが出来ている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	散歩の途中で立ち寄って下さったり、家族の体調について相談を受けるなど、協力支援をおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況などについて報告を行い、地区の代表や民生委員の方々から意見をいただきながらサービスの向上に活かしている。	行政、地域の代表者、民生委員、参加が可能な家族などを交えて定期的に開催されている。行事や利用者の状況報告などをし、業務日誌に災害時のチェック項目を追加したり、緊急時の避難が容易に出来るようにスロープを設置するなど改善が見られる。今後、緊急時に対応して玄関にAEDの設置を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進員者会議を開催し、ホーム内の状況や確認をしてもらいメールや電話等でも密に連絡がとれる状況にある。	運営推進会議への出席は毎回であり、生活保護の関係で福祉担当の職員の訪問もある。メールでの情報交換は頻繁にあり、相談などは電話で問い合わせするなどして、双方に良好な連携が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる具体的な行為については、一人一人の職員に対してプリントが渡されている。評価についても毎月チェックされている。玄関の施錠については、18時30分以降は職員が一人になることや、外部からの侵入等に対して施錠されている。	外出傾向の利用者にはさり気なく付いて行くなど抑制のない自由なケアに努めている。具体的な行為については壁に貼ったり、プリントを用意して周知するなど、管理者は常に身体拘束についての研修を重んじており、職員の身体拘束への意識の高いケアに活かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞記事等の回覧を行い、現状については正しく理解しスタッフで意見交換を行いながら日々の介護にあたっている。又、外部で行われる研修等へも参加し伝達研修などにより皆で共有出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会はある。成年後見制度に関しては、現在、家族と利用者を中心とした支援を行っており活用する状況にない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に具体的な説明を行い納得していただいた上で文書の交付を行い入居していただいている。又、入居後も利用者の状況を伝え不安や疑問点について尋ねやすい雰囲気作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の病院受診や面会の際に利用者の状況を伝え意見や要望を聞かせていただきケアにいかしている。	料金支払い時や家族の受診支援の際など折に触れ、家族にはケアマネジャーより利用者の状況報告がなされており、その中で、希望や要望の聞き取りをしている。ケアプランへの反映にも繋がっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、ミーティングを行っておりその際に改善点についても積極的な意見が聞かれている。	管理者は現場の職員の気付きやアイデアは積極的に取り入れてケアの質を高める努力をしている。毎朝のミーティングで利用者の問題点を話し合い、特に利用者の情報に変更があった場合は、「申し送りの箱」を設置するなど職員のアイデアで密な情報共有を図っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の得意分野を生かし、各業務の担当を決めそれぞれの相談役としても活動出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得に向け各研修への参加や通信教育受講の支援を行っている。又、勤務してから数年が経過している職員に対しては、基礎研修の再受講など振り返りの機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>セミナー開催に向けて交流する機会があり定期的な情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で本人、家族、関係機関と面談し、本人の生活歴や現状をアセスメントしていき、本人のペースで徐々になじんで行けるように配慮しながら信頼関係を気付いていけるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただき、生活の流れ等について説明、得られた情報に基づいてサービス計画を作成、意見交換の出来る機会を設けるなど、関係作りにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か、何に困っているかを気がついた時点で情報交換し優先すべき支援を見極めスタッフ間で対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場におかず、お互い助け合って生活するという関係作りに努め、生活面でのアドバイスをもらったりしながら支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況改善について家族の協力が重要である事を伝え、協力を得ながら共に本人を支える関係を築いていけるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に季節の衣装替えや郵便物の確認に帰り、近所の方との会話を楽しめる機会を作っている。	衣替えの服や、庭の花を採りに自宅に帰る利用者もおり、そのついでに、近所の友人や知人と話もできている。墓参りや行きつけの美容院等、ホームに入居後も馴染みの関係や場所が途切れない支援が出来る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合い支えあう環境作りを大切にしながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話等での相談事に応じる体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中や家族や親近者の面会時の会話等で、その人を知ること、言葉だけでなく表情等で好きなこと、したいこと、望んでいることなど一人一人の思いをくめるようにしている。	筆談を通して思いの把握をしている利用者もいる。手を挙げてのトイレの合図や表情、所作で利用者個々の思いの汲み取りに努めている。居室には職員のアイデアで本人のしたい目標を書いて貼るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族との面会時、本人とのコミュニケーションの中、本人を取り巻く関係機関から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、水分、食事摂取量、排泄状況等を勤務にあたるスタッフが全員把握できるようにしている。おおまかな日課はあるがその日の状態で個人のペースを大切に援助している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の朝礼のなかで必要なことをスタッフ同士で話し合い個人の変化や思いを共有している。家族の面会時、本人を交えた談笑の中思いをくみとれる機会にしている。上記のようなことをモニタリングや介護計画にいかせるように取り組んでいる。	職員は、利用者の些細な表情や体調の変化などを素早く察知し日々のケアに当たっている。ケアマネジャーが作成したの独自の詳細なモニタリング表は、職員の密な情報の共有源になっている。利用者各々の身体状況や嗜好品など個々の利用者の思いや希望を盛り込んだ現状に即した介護計画の作成への努力が見て執れる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者の様子を支援日記に記録し、更に介護経過としてまとめモニタリングに生かせるようにしている。毎日のミーティングでも情報交換や話し合いを行い、状況の変化等早めに気付けるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院や病状の変化時などは本人、家族、スタッフの意見を聞きながら、ケアプランの立て直しを行っている。又ケアプランの期間に応じてケアプランの立て直しをしている。			
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校との交流、中学生の職場体験の受け入れなどを通しその後も地域の子供たちが自由に出入りしお互いに存在価値を高められるようなレクリエーションを行っている。慰問活動も多い。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ、入居前に受診されていたかかりつけ医の受診を継続していけるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。専門医別に家族の協力による受診や職員の同行支援を行っている。緊急時の対応も看護師が常勤しており、家族から安心の声も聞かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内にも看護師が在籍しており情報交換を行いながら支援している。また、気になる点などについては訪問医に相談し利用者が適切な受診、看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際しては、施設側の情報提供書を作成し、入院生活がスムーズにおくれるように支援している。入院中も面会を通して退院後の支援にいかせるよう経過状況の把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「出来る事、出来ない事」等の説明を行い、利用者、ご家族の思いに沿ったケアができるよう関係機関の協力をいただきながら支援している。	入所時に重度化や終末期に於ける、ホームで出来る最大の対応を本人や家族には説明している。医療連携の手続きを取り、ホームとしての指針を作成したうえで家族の同意書の文書化を進めている最中である。看取りの希望者も居ることから、段階を追って家族との話し合いや主治医、医療機関との密な連携を取りながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行われる上級救命講習などを定期的に受講しており、実践力を見につけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間を想定した避難訓練を年に2回行っている。消防団や地域の協力をもらいながら利用者が安全に避難できるように努めている。暴風シャッターやスプリンクラー等も設置済みである。</p>	<p>消防署の指導の下行われる避難訓練には地域住民の参加も多数ある。近隣住民は日頃からホームで起きた緊急時の避難には協力の意向を伝えており、地域の強力な支援が得られる体制が出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活状況を知り、その人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて、配慮している。	その日の状態や、歩いてきた人生を重んじて利用者個々に応じた対応を心掛けている。失敗時等はさりげなく部屋に誘導するなど尊厳に関わることは最大の配慮を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	部屋の片付けや、掃除など一緒に行いながら、必要な物を選んだり、買い物等の計画を立てたり、自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の意志確認を行い体調や希望に合わせた暮らしを支援している。起床時間・食事等、個々に合わせた時間で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	できるだけ、入居前に利用していた美容室・理容室を利用して頂けるよう支援し、入浴の準備など好みの洋服を自分で選んでいただくよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・片付け等、利用者のADLに応じた役割分担を行いながら、食事が楽しみなものであるよう支援している。	手掘りや、ソーダツツの皮むき、梅干しや干し大根を作るなど昔を懐かしみ、残存機能をフルに発揮して食に繋がる楽しみを得られている。食事は減塩の味噌を使うなど利用者の健康にも配慮されている。個別にケーキや寿司を食べに出掛ける利用者もあり、常に食への関心が薄れない支援に努めている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量については個々に記録し、職員全員が把握できるようにしており、利用者の状況や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ・介助を行い、ポリデントによる義歯の消毒も定期的に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起立時の尿漏れ等も多く、殆どの利用者様が尿取りやリハビリパンツを使用している。時間的に声かけ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	便意や尿意を感じられるほどに改善方向に向いている利用者もいる。個々の排泄のチェック表での声掛け誘導や手を挙げて意思表示する利用者もいる。昼間はリハビリパンツに切り替えて過ごすなど、職員は個々に応じてトイレでの自立排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況チェックを行い、飲み物や食材選びなど個々に応じた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	介助を要する人、そうでない人など、個々に合った入浴スタイルを取っている。	一日置きの入浴支援になっているが希望に応じ毎日でも可能である。乾燥肌の利用者には家族が手作りの化粧水を持って来るなどしている。足が冷えて眠れない利用者に対しては足浴で安眠を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴・食事・排泄等声かけを必要とされる時間もあるが、基本的には自室に帰られる時間も自由に選んで過ごしておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を各利用者のカルテにファイルしてあり、常時確認できるようになっている。又、薬の変更等があった場合は、申し送り簿で情報を得られるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、食事の後片付けや洗濯物干しなど、それぞれの役割をもって生活されている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の一人一人の希望に沿って散歩や買い物に出かけたり家族とともに美容室や墓参りに出かけられる方もある。喫茶や外食など日常的に支援を行っている。	家族を含めた宿泊の温泉旅行を実践して喜ばれている。墓参りやカートを押しての買い物、道路沿いの花屋へ散歩に出掛けたりしている。馴染みのケーキ屋でお茶を楽しむ利用者もいる。職員は車椅子の方でも対応できるバリアフリーの場所を探すなど日常的にホームにとじ込まない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>部屋で管理されている方もありますが、殆どはホーム側で預かり、生活に必要な物など、新聞の広告を見ながら買い物リストを作られ、職員と一緒に買い物に出かけておられる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族の方から贈り物が届く事も多く、その都度お礼の電話をかけられたり、写真や手紙をやりとりされている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、季節を感じられるような掲示物もあり、利用者がそれぞれに居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>	<p>リビングは対面式キッチンで見守りに配慮している。テレビを囲む様に大型のソファが置かれ、利用者は思い思いにゆったりと過ごせる。仏壇のコーナーもあり生活感が見て取れる。壁には職員と共に作った作品や折々の行事の写真が貼られ家族が持ち帰ることが出来る工夫もされている。心地よいBGMが流れ利用者は個々にゆったりとくつろげる共用空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テレビを見る空間、ラジオを聞く空間など、それぞれ気の合う利用者同士で過ごされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものの持ち込み、身体状況や認知症の周辺症状等に合わせて配慮した家具・手すりの設置など、利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	希望に応じて電動ベットにしている利用者もいる。家族の撮った風景の写真や使い慣れた三面鏡など馴染みの品が持ち込まれており、利用者が自宅の一室の様に安心して過ごせる配慮が随所に視られる。筆談の入居者の居室には家族との連絡用のノートが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子等はキャスター付きの物、そうでない物など利用者のADLに応じて使い分けている。居室を間違えたりされる利用者に関しては、部屋の入り口に花やネームプレートなどを貼り、安心してホール移動ができるよう配慮している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない